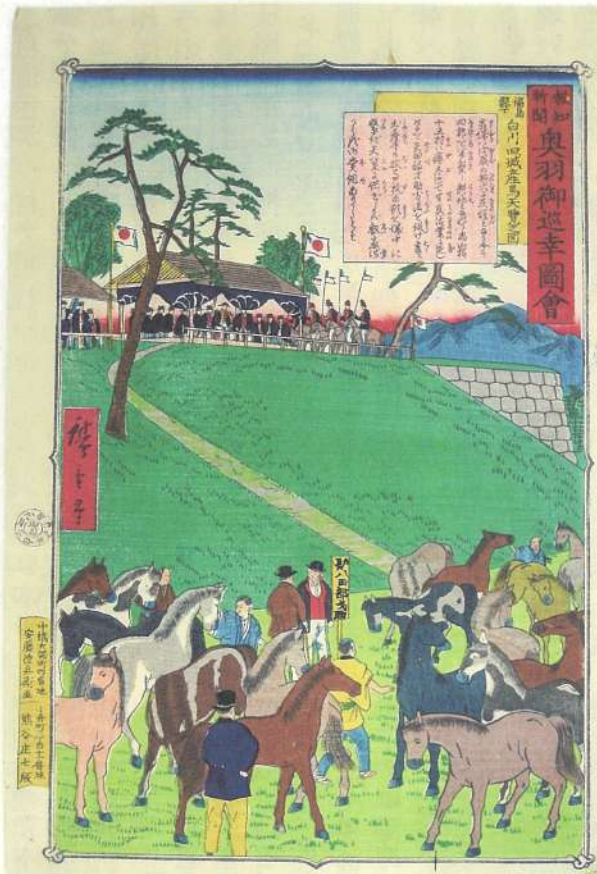


福島県史料情報

第74号 令和8年(2026)2月



「報知新聞奥羽御巡幸図会 福島縣下白川旧城産馬天覽之図」(個人蔵)

明治九年の東北・北海道巡幸の錦絵について

明治天皇の東北・北海道巡幸は、今から一五〇年前の明治九年(一八七六)六月二日から七月二十一日までの期間でなされている。この巡幸を題材にした錦絵がいくつ出版され、三代歌川広重(安藤徳兵衛)・楊州周延(橋本直義)・孟齋(永島芳虎)など三人の浮世絵師によって描かれている。

大判の「報知新聞奥羽御巡幸図会」シリーズの錦絵は、中橋大鋸町四番地の三代歌川広重によって描かれ、小舟町三丁目十一番地の熊谷庄七が版元として出版している。福島県内を舞台にした錦絵は、「福島縣下白川旧城産馬天覽之図」、「福島縣下桑野村開墾地図」、「福島縣下信夫橋之図」の三種類が確認されている。このシリーズでは、明治九年十月十六日付の御届日である「東京赤坂皇居御出門図」などを除けば、その他の作品のほとんどでは明治九年九月六日付の御届印が左の欄外に存在しており、「福島縣下白川旧城産馬天覽之図」もこれに該当する。

私見によれば、このシリーズの多くが、写真師であった内田九一の弟子で巡幸に随行した長谷川吉次郎や松崎晋二が撮影した写真を基にしつつ、全体の構成を考慮して一部を省略したり、あるいは創作加筆して制作されていることが分かるのである。

錦絵の構図は、明治九年六月十三日午後長谷川が撮影した写真「白河旧城跡産馬天覽ノ図」を利用している。写真では白河城(小峰城)本丸跡に放たれた長坂村(西郷村長坂)外十四箇村の産馬千五百頭余や馬夫八百人が写っているが、錦絵では特徴のある馬や人の数を絞り、手前中央には産馬の貢献によって御前に召された白河の商人八田部才助を赤の洋装で配し、「戸長八田部才助」の表札を立てて際立たせている。奥の八幡台に設けられた野立所では、天皇がこの光景を観覧している。(渡邊 智裕)

三県合併時の
公文書の引き継ぎ

福島県は今年（令和八年）、県政一五〇周年を迎える。これは、明治九年（一八七六）年八月二十一日に、当時の磐前県（主に現在の浜通りを管轄）・福島県（同中通り）・若松県（同会津）の三県が合併（形式的には福島県への併合）し、現在とほぼ同じ県域の福島県が誕生したことにならむ。

同年に内務省が定めた引継事務取扱規則によれば、府県合併に伴う事務の引き継ぎ期間は五十日であり、例えば若松県では職員が「御引渡事務整頓迄無休暇出勤取調」（「若松県」日誌）明治九年八月二十六日条、明治・大正期の福島県庁文書七六所収）をすることで対応した。

その甲斐もあり、無事に合併は整い、三県の公文書も現在の福島県へと引き継がれることとなった。その際に若松県庶務課簿書掛が作成した引継書には、当時の事情が次のように記されている。

本年二月廿日ニ至リ始メテ簿書掛規則ヲ制シ掛員ヲ定メ其専掌スル所ヲ盡サシム依之本年一月ニ沂リ盡ク該規則ヲ履践整頓セシム是故ニ去二年ヨリ八年迄ニ係ル廳内貴重ノ文書類モ亦略々

該規則ニ準據シ編纂スヘキノ積リニテ其遺佚スル者ハ之ヲ整理シ専ラ繕寫編録ニ従事セシム（庶務課引渡演説書、明治・大正期の福島県庁文書一八所収）

これによれば、若松県では明治九年の初めに専門部署を設けて公文書の整理を本格化させていたが、突然の合併によって作業を中止せざるを得なくなった。そこで、簿書掛では「繕寫編録」中のものについて「謄写完全スル者」「未了ノ者」「書類未渡すこととした。

こうして、前身県の公文書は新たに誕生した福島県のものとなり、改めて一体的な管理が行なわれていく。それから一五〇年が経ち、保存年限の満了などの理由で廃棄されたものや再整理によって他の公文書と合綴されて原形を失ったものも多い。

県政一五〇周年の起点は、文字通り、新たな公文書管理の出発点ともなった。

（山田 英明）



庶務課引渡演説書
(明治・大正期の
福島県庁文書 18)

歴史資料館の一年

収蔵資料展は三回開催しました。

「江戸時代の出版文化」は、四月十九日から七月二十一日までの会期中、江戸時代の板本や一枚刷りなどの出版物を展示し、当時の人々が出たのか、福島県域がどのように認識されていたのかを紹介しました。

水郡線応援「東白川郡の古文書―鮫川村編―」は、八月九日から十一月二十四日までの会期中、水郡線沿線地域（東白川郡）ゆかりの古文書を

取り上げた連続展示の第二弾目の展示です。鮫川村にゆかりのある古文書のなかから、寺西封元の小児養育政策、隣村との境争論などに関する資料を展示しました。「新公開史料展」は、十二月十三日から三月二十二日まで開催中で、『福島県歴史資料館収蔵資料目録』第五十六集に収録された伊達郡藤田村ゆかりの商家に伝わった「二文字屋文書（その二）」および伊達郡小坂村の旧家に伝来した「高原庄一家文書（その二）」のなかから代表的な歴史資料を紹介しています。

移動展では、十月三日から十一月五日まで「明治時代の白水阿弥陀堂」を福島県立図書館で開催し、明治時代の白水阿弥陀堂の修理や日本

美術院による堂内の仏像の修復に関する公文書や古写真を展示しました。十月二十五日には、当館学芸員が福島を生きる講座第二回「明治時代の白水阿弥陀堂の修復と日本美術院」という研究報告を行いました。

十一月十五日の地域史研究講習会では、三春町の三春交流館「まほら」にて、大橋幸泰早稲田大学教育・総合科学芸術院教授による「島原天草一揆の記憶」というご講演と、当館学芸員による「江戸時代から明治時代にかけての阿武隈川上流域の舟運」という研究報告をしました。

古文書講座は、やや中級者向けとし、八月四日・八月十九日・十月二十二日・十一月五日の四回実施し、「堀江正樹家文書」にある江戸時代初期の米沢藩に関する武家の古文書をテキストとして用いました。資料閲覧については、昨年度から通常の閲覧体制に戻しました。

福島県史料情報

第 74 号 令和 8 年 2 月 25 日

編集・発行

公益財団法人 福島県文化振興財団

福島県歴史資料館

〒960-8116 福島市春日町5-54

TEL 024-534-9193 FAX 024-534-9195

URL <https://www.fcp.or.jp/history/>

E-mail history@fcp.or.jp